

令和元年度

苫小牧市美術博物館事業評価報告書

(平成30年度美術博物館自己点検評価に関する報告)

令和2年3月

苫小牧市美術博物館協議会

目 次

1	はじめに	1
2	美術博物館自己点検評価報告の流れ	2
3	自己点検評価の結果	3
	(1) 展示事業	3
	(2) 教育普及事業	4
	(3) 調査研究活動	4
	(4) 資料の収集、保存	4
	(5) 管理運営	5
4	自己点検評価シート（一次・二次評価）	6
5	これからの美術博物館のあり方	15
6	苫小牧市美術博物館協議会委員名簿	16

1 はじめに

「苫小牧市美術博物館実施計画」の2期目（平成29～31年度）の中間年度となり、「あつめる」、「そだてる」、「ひろがる」をテーマに地域に密着した活動に努めてまいりました。

本館は、国内でも例のない美術館、博物館、埋蔵文化財センターとしての3つの機能を有しております。その共存する機能を活かし、市民が美術・歴史等に触れ、学習によって豊かな感性を育てること、歴史資料や美術作品を収集、保管、調査研究し、市の財産として後世へ継承していくことが館の使命であります。

その使命を様々な方法で広く市民、近隣の皆様に知っていただき、ご来館いただくために、アンケート等による事業に対するご意見やご要望を伺い、事業の結果についての自己評価（一次評価）を行い、さらに美術博物館協議会委員による外部評価（二次評価）を行うことで、当館が抱える課題や反省点を改善してまいります。

令和2年3月

苫小牧市美術博物館
館長 長谷川 文作

2 苫小牧市美術博物館自己点検評価報告の流れ

■概要

苫小牧市美術博物館自己点検評価報告は、現在行っている活動を振り返り、適正に行われているかどうかを自己点検することで課題や反省を自覚し、改善点の検討につなげるものである。

■自己点検評価の流れ

年度当初

「公益財団法人日本博物館協会 博物館自己点検システム」を基にした評価指標（年間目標）の設定



年度末

【一次評価（自己評価）】

評価指標を基にした評価	具体的な内容を総括的に評価	客観的な視点
自己点検評価シート ・大項目は「苫小牧市美術博物館実施計画」に基づき設定（大別すると5事業の活動計画に分類） ・必要に応じて、利用者の声であるアンケート結果を反映させる ・スタッフ全員による評価結果の中央値を館による一時評価とする	I.展示事業、II.教育普及事業に関する報告と評価 ・事業内容、観覧者・参加人数、アンケート内容等の報告及び所見 III.調査・研究に関する報告と評価 ・各学芸員の1年間の研究テーマに基づく業務内容の報告及び所見 IV.資料の収集、保存に関する評価 ・該当する方針に基づいて収集し、適正に管理をしているか、どうかを評価 V.管理運営に関する評価 ・施設の改善に努め、効率的に運営管理しているか、どうか等を評価	公益財団法人 日本博物館協会「博物館自己点検システム」参照 ・全国の博物館・美術館の自己点検に使用されている点検システムを参考資料に採用する



【二次評価】

一次評価を美術博物館協議会に提出。各委員が活動内容や評価指標（目標）の達成度を第三者の目線でチェックしたものを二次評価とする。



一次評価と二次評価をまとめ、苫小牧市美術博物館自己点検評価報告書を作成する。

※本自己点検評価シートは平成28年度から3か年実施し、平成30年度を終えた時点で、必要に応じた運用の再検討を行う。

3 自己点検評価の結果

(1) 展示事業

【方針】

博物館と美術館の複合施設として様々な展示活動を実施する。

- ① 複合施設としてそれぞれの特性を活かした新しい視点による展示事業を実施します。
- ② 常設展の情報の更新やデータの追加など、常設展の充実に努める。
- ③ 他都市館園や地元企業、外部機関と積極的に連携を進め、様々な特別展、企画展を開催する。

<分析と評価>

- ・ 1回の特別展、4回の企画展及び収蔵品展・特集展示、中庭展示を実施した。
- ・ 特別展「歌川広重 二つの東海道五十三次 保永堂版と丸清版」では、世界的に著名な浮世絵師である歌川広重による「東海道五拾三次」は、見るものを圧倒するヒロシゲブルーの作品と現地の写真を紹介した。
- ・ 企画展「『風の生涯』と勇払」では、酒井信義（画家）の小説の挿絵原画をはじめ、登場人物でもある浅野晃の詩作や書籍、篠田弘作（政治家）らの関連資料の展示を通して苫小牧市勇払地区の歴史と芸術に焦点を当てた。
- ・ 企画展「藤沢レオ—Still Living」では、苫小牧市文化奨励賞を受賞した苫小牧市在住の金属工芸家・彫刻家である藤沢レオの作品を展示した。
- ・ 企画展「美々鹿肉缶詰工場展～よみがえるまぼろしの工場～」では、近代の苫小牧の産業の始まりとなった美々鹿肉缶詰工場の歴史を辿った。
- ・ 収蔵品展「野を舞う～廣田良二 蝶標本コレクション展」では、苫小牧出身の廣田良二が生前に収集・撮影していた蝶標本コレクションや画像資料を紹介した。
- ・ 特集展示「北川豊の静物画—生命充ちるところ—」では、コレクション収集やその活用で新たな可能性を探る展示事業を行った。
- ・ 平成30年度の展示事業では、著名な作品による展示会や可能な限り多くの美術展を観覧できるスケジュールとしたことも観覧者から好評を得た要因と考えられる。

二次評価では概ね好評を得たが、地元ゆかりの作家展をどう実施していくのか協議会委員と計画策定が必要であり、討論が必要との声もあった。

(2) 教育普及事業

【方針】

子どもからお年寄りまで幅広い市民を対象にした多彩な教育普及事業を実施する。

- ① 市民の自然、歴史、考古および文化芸術への多彩なニーズに応えるため、各種講演会講座、ワークショップなど多彩な事業を展開する。
- ② 学芸員の専門性を活かした事業を実施し、学ぶ喜びを得る機会を提供する。
- ③ 学生や教員など学校教育と連携し、子どもたちの学習意欲や豊かな心を育む。

<分析と評価>

- ・二次評価では概ねA評価を得たが、学校教育との連携では、学校ニーズを踏まえた内容の充実を望むとの意見等があった。また、普段から学校教育と関わりの持てない人達は参加できないため、人が集まる場所でのワークショップなどの開催を希望する意見もあった。

(3) 調査研究活動

【方針】

自然、歴史、考古、文化芸術に関する基本的な調査研究のほか、収蔵する資料に必要な調査研究活動を行います。子どもからお年寄りまで幅広い市民を対象にした多彩な教育普及事業を実施する。

- ① 収蔵資料に関する調査研究を推進する。
- ② 樽前山麓及び勇払原野を中心とした、苫小牧地方に関する調査研究を行う。
- ③ 大学などの高等教育機関他都市館園などと連携を深め、グローバルな視野で苫小牧の発展に寄与する調査研究を行う。

<分析と評価>

二次評価ではAもあるが、学芸員ならではの研究発表などの成果が少なく、Cと評価した委員もあり、学芸員の専門性を活かした調査研究による論文発表等のための研究費や予算や時間の拡充が必要とする意見などがあった。

(4) 資料の収集、保存の方針

【方針】

郷土にゆかりのある資料を、「苫小牧市美術博物館資料収集方針」により収集し、適正な管理の下に保存するとともに他館との連携を行い、情報共有を図る。

<分析と評価>

- ・「苫小牧市美術博物館資料収集方針」に沿って資料を収集できているが、計画的な整理、リスト化などは不十分で今後の課題である。
- ・二次評価では概ねB評価であったが、Cと評価した委員もあり、資料管理体制や環境整備についての課題を把握し、管理目標を確立する声などがあった。

(5) 管理運営

【方針】

複合施設の美術博物館として、施設の安全面と市民の利便性を考慮して、使いやすい施設を目指す。

- ①安心できる美術博物館として施設の改善に努め、館内利用の快適度を高めていく。
- ②事業の質を担保しながら、経営的な視点を持って効率的に運営・管理する。
- ③すべての人にとって利用しやすい環境を整える。

＜分析と評価＞

- ・施設・設備の抜本的な老朽化対策に苦慮しながらも、予算の範囲内で施設の改修・改善を行った。
- ・入館者数の目標値は達成できた。経営計画として実施計画・事業計画に沿った運営を行った。目標値や計画自体を承知していない中での二次評価は難しいとの声もあり、来館者以外からの要望や意見を把握する取組も必要との意見もあった。
- ・市広報誌や新聞、館のホームページ等を介して最新情報を公開。友の会やボランティア制度、美術博物館協議会等の活用し、快適な環境を整えることに寄与した。

4 自己点検評価シート（一次・二次評価）

一次評価及び二次評価の評価基準は以下に定める。

A：成果を挙げている（90－100%）

B：ほぼ達成している（70－80%）

C：より一層努力を要する（50－60%）

D：努力が結果に結びついていない。方法そのものについて再検討を要する（50%未満）

I 展示事業

事業活動計画	一次評価（館内自己点検評価）	二次評価（運営委員による評価）
	評価指標	評価・委員コメント
	評価・指標に対する実績・評価理由	
博物館と美術館の複合施設として、様々な展示活動を実施します。	1 展示方針を策定し、計画的に展示を行っている ＜評価＞A 苫小牧市美術博物館実施計画を策定している。	<p><評価（中央値）>A <内訳> A:7 B1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常設展示のリニューアルを進めてほしい。 ・市内外に館の催しが発信されているが、館名に「美術」が加わっている意義が、周知されているかは疑問である。 ・多様な展示を手掛け入館者を集めた。さらに複合施設としての特徴を活かす取り組みが必要。
	2 常設展示は定期的に更新している ＜評価＞B 収蔵展示を含め、一部の常設展示の定期的な更新を実施している。	
	3 展示図録やガイドブックを作成・配布（販売）している ＜評価＞A 各展示会において作品リストを作成して配布しているほか、特別展「歌川広重」では図鑑、グッズを販売、展示会「藤沢レオ展」では図録を作成した。	
	4 館の専門スタッフ（学芸員など）による展示の案内・解説、定期的実施している。 ＜評価＞A 各展示会における学芸員のギャラリートークや解説会、作家によるアーティストトーク等を実施。	
	5 複合施設としての特性を生かした展示活動をしている。 ＜評価＞A 『風の生涯』と勇払』では芸術と歴史を、「美々鹿肉缶詰工場展」では歴史と考古の要素を活かした展示を実施した。	
	6 他館や他団体との資料貸借により、幅広い展示活動を実施している。 ＜評価＞A 各展示会において道内博物館、美術館を始めとした関連館園や作家所蔵の資料を貸借し、実施している。	
	7 アンケート結果により、来館者の高い満足	

	度指数を得られている。	
	<p><評価>A 各展示会においてアンケートを実施。結果は年度でまとめて事業評価報告書（H30年度分よりHP上に掲載）で報告している。</p>	

II 教育普及事業

事業活動計画	一次評価（美術博物館による評価）	二次評価（運営委員による評価）
	評価指標	評価・委員コメント
	評価・指標に対する実績・評価理由	
子どもからお年寄りまで、幅広い市民を対象にした多彩な教育普及事業を実施します	<p>8 教育普及活動を、策定した方針のもとに計画的に行っている</p> <p><評価>A 苫小牧市美術博物館実施計画の策定（3か年計画）し、計画に沿って実施している。</p>	<p><評価（中央値）>A <内訳> A:5 B:3</p> <p>・館内外において様々な教育普及活動が、概ね実践できていると思うが、自然史系の分野では、市民、企業人ともに（関心が浅く）理解が深まっているのか疑問を感じるところがある。</p> <p>・「郷土学習」においては学校のニーズを踏まえた内容の充実を望む。</p>
	<p>9 教育普及活動について参加者数の目標を設けている。</p> <p><評価>A 事業ごとに参加者数の目標とする定員を設定している。</p>	
	<p>10 複合施設としての特性を活かした教育普及事業を実施している。</p> <p><評価>A 「美術博物館大学」。「博物クラブ」では美術、自然、考古、歴史などの関係する講座を開催している。</p>	
	<p>11 他館・大学等と連携したセミナー、研究会、ワークショップ等を行っている。</p> <p><評価>A 他機関の講師による大学講座のほか、近隣大学の研究者によるトークイベントなどの実施。</p>	
	<p>12 博物館の利用についての講座、学芸員の仕事を体験する講座、バックヤードツアーなど、館の利用を支援する教育普及活動を実施している。</p> <p><評価>A 市内中学生を対象とした職業体験、収蔵庫バックヤードツアー（考古、自然史）を実施した。</p>	
	<p>13 入館者用の図書・情報コーナー（室）を設けている。</p> <p><評価>A エントランスには、デジタルミュージアム、2階には図書コーナーを設置してい</p>	

	る。	
	14 出張・移動活動（アウトリーチ活動）を行っている。	
	<評価>A 出前講座、出前授業等を実施している。	
	15 学校の利用に備えて、プログラムの準備、並びにスタッフを配置している。	
	<評価>A 市内3-4年生を対象にした「郷土学習」、学校での団体利用時には解説するなどの対応をしている。H25年度より「ミュージアム in スクール（美術アウトリーチ活動）」、その他理科や社会科自由発表会を共催している。	
	16 学校の教員向けの利用説明会や研修会を行っている。	
	<評価>A H26年度より「教員のための博物館の日」を実施している。	
	17 博物館実習の実習生を受け入れている。	
	<評価>A H30年度は1名の実習生を受入れている。	
	18 アンケート結果により、参加者の高い満足度指数を得られている。	
	<評価>A 各行事においてアンケートを実施。結果は年度でまとめて報告している。	

Ⅲ調査研究活動

事業活動計画	一次評価（美術博物館による評価）	二次評価（運営委員による評価）
	評価指標	評価・委員コメント
	評価・指標に対する実績・評価理由	
自然、歴史、考古、文化芸術に関する基本的な調査研究のほか、収蔵する資料に必要な調査研究活動を行います。	19 常勤の学芸員が配置されている。 <評価>A H30年度現在、学芸職員として7名を配置している。	<評価（中央値）>C <内訳>A:4 B:2 C:2 ・学芸員による学会等での研究発表、専門雑誌での論文発表、専門的な書籍執筆などの研究成果は少ない、「知の拠点」を目指している博物館として調査研究機能の充実が急務である。
	20 学芸員を専門職として採用している <評価>A H30年度現在、学芸員の専門の内訳は美術2名、歴史2名、自然史2名、考古1名を常勤配置している。	
	21 学会の大会や他館、他機関主催の研修や研究会に業務として学芸員を派遣・参加させている。 <評価>A 道内の博物館、美術館の協議会主催の研修会には業務として派遣。学会について	

<p>は業務ではなく、個人として参加（招待講演を除く）している。</p>	
<p>22 展示や教育普及、調査研究の方針、保存など学芸員の活動の成果を館として刊行物等で公開している。</p>	
<p><評価>A 「年報」、「紀要」、「美術館だより」を年1巻ずつ刊行物として公開している。</p>	
<p>23 館として調査研究の方針・計画を策定している。</p>	
<p><評価>A 年度当初に学芸員が作成する調査研究計画書に基づき方針・計画を策定している。</p>	
<p>24 調査研究のための予算措置を行っている。</p>	
<p><評価>A 調査研究計画書に沿った計画等に基づき予算を計上している。</p>	
<p>25 調査研究に取り組むため、専門書の購入、機材、器具の設備など、環境整備を行っている。学芸系職員の職務内容・調査研究等の業務遂行について配慮している。</p>	
<p><評価>B 現在、企画展準備のための調査研究活動が中心であるが、専門書購入、設備の導入、調査研究のための時間や予算の拡充は困難な状況である。</p>	
<p>26 資料の管理・修復・保存、展示・教育普及活動の理論や方法、博物館経営など、博物館学分野での調査研究に取り組んでいる。</p>	
<p><評価>B 博物館学分野での調査研究の取り組みは今後の課題である。</p>	
<p>27 地域への貢献を視野に苦小牧を中心とした地域や関連資料について、調査研究に取り組んでいる。</p>	
<p><評価>A 各分野において苦小牧を中心とした課題を設定し、調査研究を実施している。</p>	
<p>28 他館や他研究機関と共同研究を行っている。</p>	
<p><評価>B 当館の展示会の成果を通じて研究成果を他館へ提供している。その一方で総合的な共同研究は今後の課題である。</p>	
<p>29 複合施設としての特性を活かした調査研究活動を実施している。</p>	

	<p><評価>A 展示会「美々鹿肉缶詰工場」開催のための資料調査において、歴史と考古両面の成果があった。今後は分野間で協力した調査研究を推進する。</p>	
--	---	--

IV 資料の収集、保存方針

事業活動計画	一次評価（館内自己点検評価）	二次評価（運営委員による評価）
	評価指標	評価・委員コメント
	評価・指標に対する実績・評価理由	
郷土にゆかりのある資料を、「苫小牧市美術博物館資料収集方針」により収集し、適正な管理の下に保存します。	<p>30 館として資料収集の方針を策定している</p> <p><評価>A 条例第2条に基づき「苫小牧市美術博物館資料収集要綱」を策定している。</p>	<p><評価（中央値）>B <内訳>A:2 B:5 C:1</p> <p>・所蔵資料の管理目標が達成されているのか現状把握を急ぐ必要がある。一層の体制、環境づくりが必要。</p>
	<p>31 法令、条例、倫理規定などを遵守して資料収集するために、館としてガイドラインを策定している。</p> <p><評価>A 条例第2条に基づき「苫小牧市美術博物館資料収集方針」「苫小牧市美術博物館資料収集方針に基づく美術資料受入基準」を策定している。</p>	
	<p>32 資料の出所・来歴の妥当性、真贋などの検討を外部の専門家を含めて行い、その助言を得て資料の購入・受入を決定している。</p> <p><評価>A「美術博物館資料収集方針」「美術博物館資料収集方針に基づく美術資料受入基準」を策定している。平成30年度は苫小牧市美術博物館資料収集委員会の意見を聞いたうえで、美術資料の受入を行った。</p>	
	<p>33 未整理資料について整理の計画を立てている。資料の修復を計画的あるいは必要に応じて行っている。</p> <p><評価>B 未整理資料の整理・修復計画はあるものの、計画どおりの実施には至っておらず、リスト化を含め今後の課題である。</p>	
	<p>34 収蔵資料のうちの7割以上について資料情報を記録している。また、資料目録のデジタル化に努め、公開・資料情報の追加・更新を適宜あるいは定期的に行っている。</p> <p><評価>B 寄贈資料等が増加傾向にあるが、情報の記録に努めている。資料の管理としてナンバーリング、デジタル化は今後の課題である。</p>	
	<p>35 温湿度・光量の管理が必要な資料のうちの半分以上の資料について、必要とされる管理を行っている。</p>	

	<p><評価>B 収蔵庫・展示室の一部で温室管理を行っている。今後は適切な資料管理を行うための体制と環境整備を進める。</p>	
	<p>36 総合的有害生物管理（IPM）の考え方にに基づき、日常的に虫菌害の予防措置をとっている。</p>	
	<p><評価>A 燻蒸処理や虫害調査を行っている。引き続き適切な資料管理を行うための</p>	
	<p>37 収蔵品及び展示品の保存・展示環境について温湿度や光量を管理している。</p>	
	<p><評価>B 収蔵庫・展示室で一部温湿度管理を行っている。今後適切な資料管理を行うための体制と環境整備を進める。</p>	
	<p>38 展示室内に監視員や監視カメラを配置している。</p>	
	<p><評価>A 特別展では監視臨時職員、企画展ではボランティアによる監視員を配置、展示室内に監視カメラを設置している。</p>	
	<p>39 資料の貸出しを認めると同時に規定・手続きを整備している。</p>	
	<p><評価>A 資料の貸出規定を定め、近隣館園での事業や研究、書籍への画像や情報掲載に利用されている。</p>	
	<p>40 他館や研究施設と連携し、資料の保存・管理に対する情報を積極的に収集している。</p>	
	<p><評価>B 学芸職員部会、研修会への参加により、資料の保存・管理レベルの向上を図っている。更に他館等との情報交流と総合的な計画・推進が必要である。</p>	

V 管理運営

事業活動計画	一次評価（美術博物館による評価）	二次評価（運営委員に在る評価）
	評価指標	評価・委員コメント
	評価・指標に対する実績・評価理由	
<p>安心できる美術博物館として、施設の改善に努め、館内利用の快適度を高めていきます。</p>	<p>41 施設・設備の維持・改善について中長期計画を策定している。</p> <p><評価>B 施設・設備が老朽化しており、中長期的計画に沿った方策を検討。一方では予算内の現実的な対応も行っている。</p> <p>42 危機管理マニュアルを整備し、防災・消防・救急・救命訓練を定期的実施している。</p>	<p><中央値>A <内訳>A:6 B:2</p> <p>・収蔵スペースがひっ迫しており、保管整備計画を立てて、市へ要請していくことが必要。現状のアンケート方法では把握できない来館者の評価、要望・意見を把握</p>

	<p><評価>A 定期的に防災・消防訓練を実施し、救急・救命等の研修にも参加している。</p> <p>43 バリアフリー化について改善が必要な個所を把握するための自己点検を実施している。</p> <p><評価>B 適宜点検を実施し、計画に従い可能な範囲で改善を行っている。平成30年度は正面玄関前の階段に滑り止めマットの設置を行った。</p> <p>44 案内表示に関しては、目視調査や来館者の意見などにより現状を把握し、必要な改善を行っている。</p> <p><評価>B 適宜点検を実施し、計画に従い可能な範囲で改善を行っている。</p> <p>45 館内美化に努めている。</p> <p><評価>A 利用者にとって心地よい館内空間を意識し、美化につとめている。</p> <p>46 休憩コーナーを設置している。</p> <p><評価>A エントランス及びラウンジを無料で開放している。</p> <p>47 来館者の利便性を図るため、夜間開館等開館時間の拡大を図っている。</p> <p><評価>A 平成30年度は4回夜間開館を実施した。</p> <p>48 質問・相談・問い合わせができる体制（窓口、電話・ファックス・手紙、インターネットの活用など）を整えている。</p> <p><評価>A エントランスの学芸員相談コーナーや、ホームページにおいて利用者の意見を広く聴く体制を継続。また、平成30年12月より館の公式フェイスブックを開設し、好評を得ている。</p>	<p>する取り組みが求められる。</p>
<p>事業の質を担保しながら、経営的な視点を持って効率的に運営・管理します。</p>	<p>49 館と設置者の間の連絡調整を定期的に行っている。</p> <p><評価>A 所属元である教育委員会のほか、市の関連部署との連携を図っている。</p> <p>50 館の事業や業務に関して、意思決定のための会議を定期的に行っている。</p> <p><評価>A 週1回の全職員での定例会議や担当者間でのミーティングを随時行っている。</p> <p>51 入館者数や各展示会ごとの観覧者数について目標値を設定し、目標を達成するために年度毎及び中長期的な経営計画を立てている。</p>	

	<p><評価>A 入館者数の目標値は市基本計画（2018～2022年度）で32,500人と設定。また、各展示会の観覧者数は平成30年度において特別展が5,000人、企画展は一展示会につき3,000人の目標を立てた。</p>	
	<p>52 事業面、管理運営面など全般にわたる自己評価及び外部評価を実施している</p>	
	<p><評価>A 毎年度本評価により実施している。</p>	
	<p>53 年報、要覧やインターネットを通して、事業実績や館の運営状況を公開している。</p>	
	<p><評価>A 年報、紀要、美術博物館だよりは毎年発行。美術博物館だよりについてはホームページ上でPDF版を公開している。</p>	
	<p>54 自己収入額の一部として外部資金の効果的な導入を実施している。</p>	
	<p><評価>A 積極的に外部資金を利用し、幅広い事業展開を目指している。特集展示（安田葉）では「日本海事科学振興財団助成金」、藤沢レオ展（企画展）では「北海道文化財団助成金」の展示助成を獲得した</p>	
<p>すべての人にとって利用しやすい環境を整えます。</p>	<p>55 館として広報宣伝計画を策定している</p>	
	<p><評価>A 毎年広報課に次年度の計画書を提出し、計画に沿って市広報誌に掲載している。</p>	
	<p>56 館のホームページを開設し、掲載内容を適時・適切に更新できる体制をとっている。</p>	
	<p><評価>A ホームページは随時更新し、最新情報を公開している。</p>	
	<p>57 館の広報誌（ニュース・レターなど）を発行している。</p>	
	<p><評価>A 「美術博物館だより」や「びとこま」を発行している。</p>	
	<p>58 入館者数増加に向けた取り組みをしている。</p>	
	<p><評価>A 利用者のニーズを反映した企画の検討、新聞への情報掲載、関係機関への印刷物の配布を行っている。また、展示会等の開催周知に併せ、案内状の送付先の拡大を図っている。</p>	
	<p>59 入荷印写の利用実態や動向、利用のニーズを把握するために管理用に関するアンケートやモニター調査を実施している。</p>	
	<p><評価>A 各事業や展示会ごとに館全体に関する</p>	

	アンケートを実施し、利用者のニーズを把握している。	
	60 障がい者に対する配慮として入館料の割引（無料を含む）を実施している。	
	<評価>A 免除規定に基づき実施。	
	61 「友の会」を設置している。	
	<評価>A 登録調査研究支援団体として「郷土文化研究会」「博物館友の会」「美術館友の会」を設置している。	
	62 「ボランティア制度」を導入している。	
	<評価>A 「ボランティア制度」を導入し、展示会の監視に協力を得ている。	
	63 地元NPOなどに関わるなど、市民が館の事業に参画する機会を設けている	
	<評価>A 「樽前artyプラス」と連携して、こども広報部の広報誌「びとこま」の発行をしている。また、「NPO法人紙風船・とまこまい」に就労継続支援に係る自立訓練の場を提供している。	
	64 館の運営について市民並びに外部機関からの参画がある。	
	<評価>A 「美術博物館協議会」を設置し、年2回開催している。	
	65 地元の企業・団体（観光協会、商工会議所など）と協賛・協力し、事業を実施している。	
	<評価>A 出光興産(株)やトヨタ自動車北海道(株)などの企業と共催または協力し、事業を実施している。	

5 これからの美術博物館のあり方について

市民の皆さんに親しんでいただけるように、美術博物館の事業活動を点検した。まず、平成30年度の事業計画に基づき、展示事業、教育普及事業、調査・研究活動、資料の収集・保存方針、管理運営の5項目の事業及びそれらを細分化した65項目の評価指標からなる一次評価（館による自己点検評価）を実施した。次に、美術博物館協議会委員8名がその一次評価、美術博物館から提示された事業報告等の資料および事業内容の視察などをもとに二次評価を行った。

【総合評価】

一次評価（館内自己点検評価）では65指標のうち53指標（81.5%）がA評価、12指標（18.5%）がB評価となった。前回とは評価指標を見直した項目もあったが、昨年度に比べ厳しい自己評価となっていた。

二次評価では「調査・研究活動」や「資料の収集・保存方針」において、各事業に費やす予算や時間の拡充の必要性が指摘され、限られた予算や人員をいかに効率的に各事業に配分するかが課題として挙げられた。今後はこれらの課題解決と共に、高い評価を得た展示事業や教育普及事業をより発展させていきたい。

厳しい財政事情と人員の中での運営は大変なものがあると思われる。前例にとらわれず創意工夫して、各学芸員の調査研究および企画能力を充実させ、市民に「知の拠点」としてますます頼られる施設となれるよう期待したい。

令和2年3月

苦小牧市美術博物館協議会
会長 揚妻直樹